

チャノキイロアザミウマの成虫の発生ピーク日が早くなっている					
[要約] チャノキイロアザミウマは佐賀県内では8~9世代発生していると推測される。果実の前期被害を引き起こす第1世代~第3世代成虫の発生ピーク日は、近年早くなっている。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果樹	専門	果樹虫害	対象	カンキツ

[背景・ねらい]

近年、チャノキイロアザミウマによるカンキツ果実の前期被害が多発して問題となっている。前期被害が多発している要因の一つに、地球温暖化に伴うチャノキイロアザミウマの発生時期が早くなっていることが指摘されている。そこで、本研究では気象データからチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク日を推測するとともに圃場におけるトラップでの誘殺数を調査して、近年のチャノキイロアザミウマの発生消長を明らかにして防除対策の資料とする。

[成果の内容]

1. チャノキイロアザミウマは、佐賀県果樹試験場内で測定した気温データを基にした有効積算温度で、年間 8~9 世代発生していると推測される (表 1)。
2. 佐賀県果樹試験場内で測定した気温データを基にした有効積算温度で、果実の前期被害の原因となる第 1 世代~第 3 世代成虫の発生ピーク日は 2011 年以降早くなる傾向を示している (表 1)。
2. 佐賀県果樹試験場内の早生温州ミカン園内に設置したトラップでの各世代成虫の発生ピーク日は、2012 年及び 2013 年と比較して、2014 年、2015 年及び 2016 年の第 1 世代~第 3 世代成虫の発生ピーク日は早い (表 2)。トラップでの第 4 世代成虫以降の発生ピーク日は、判然としなかった (データ省略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 佐賀県果樹試験場内で観測した気温データを基に、各年の計算開始日を 1 月 1 日とし、発育零点 9.7℃、第 1 世代成虫の発生ピーク日は有効積算温度 360 日度、その後の世代の成虫の発生ピーク日は有効積算温度 310 日度として予測した。
2. チャノキイロアザミウマ成虫の発生消長調査は、トラップ (IT シート (イエロー、サンケイ化学製) を 500ml ペットボトルに巻きつけたもの) を佐賀県果樹試験場内の早生温州園の高さ 1.2m に設置して 5~7 日ごとに回収して調査した。

[具体的なデータ]

表1 有効積算温度を用いた各世代成虫の発生ピーク日の予測

世代	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
第1世代	5月17日	5月20日	5月22日	5月16日	5月20日	5月15日	5月11日	5月9日
第2世代	6月16日	6月17日	6月19日	6月12日	6月13日	6月10日	6月8日	6月5日
第3世代	7月8日	7月9日	7月8日	7月5日	7月4日	7月4日	7月2日	6月26日
第4世代	7月27日	7月27日	7月25日	7月24日	7月21日	7月24日	7月22日	7月15日
第5世代	8月14日	8月13日	8月11日	8月9日	8月7日	8月11日	8月8日	8月1日
第6世代	9月2日	8月30日	8月30日	8月26日	8月22日	8月30日	8月27日	8月17日
第7世代	9月24日	9月18日	9月18日	9月14日	9月12日	9月21日	9月20日	9月4日
第8世代	10月29日	10月17日	10月18日	10月12日	10月4日	10月19日	10月22日	9月25日
第9世代	-	-	-	-	11月8日	-	-	10月19日

- 1) 佐賀県果樹試験場内の気象データを用いて発生ピーク日を予測した。
- 2) 起算日：毎年1月1日
- 3) 発育零点 9.7℃、第1世代成虫の発生ピーク日は有効積算温度 360 日度、その後の世代の成虫の発生ピーク日は有効積算温度 310 日度として予測した。

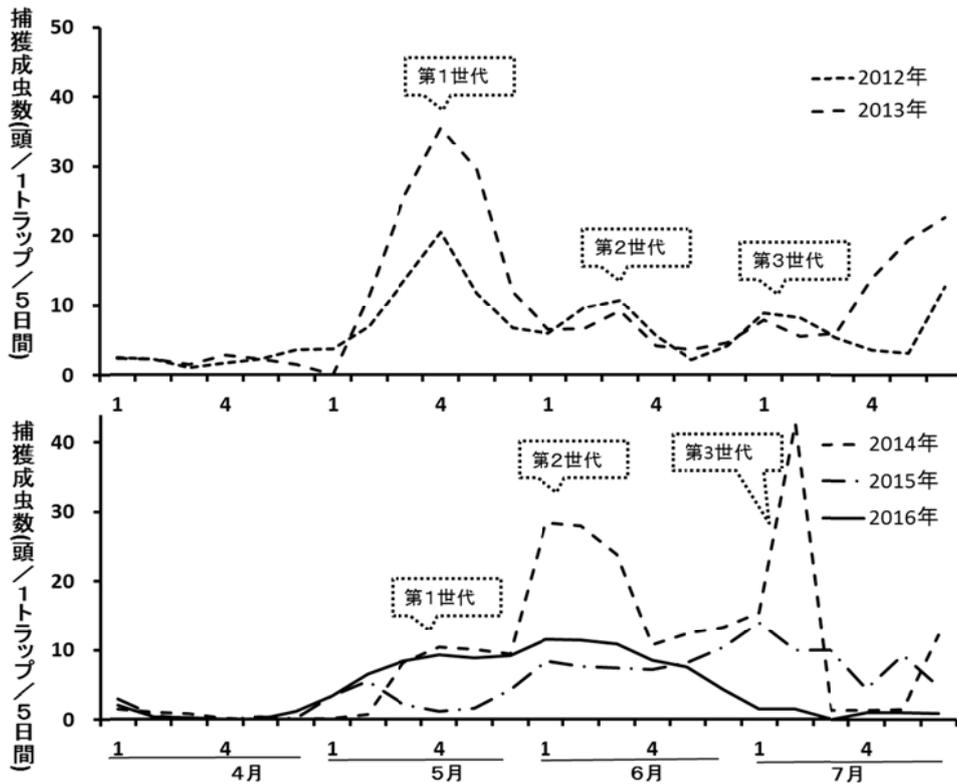


図1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生消長

- 1) 佐賀県果樹試験場内の早生ミカン園内に設置したトラップで捕獲された成虫数。

[その他]

研究課題名：β-クリプトキサンチンの供給源となる国産カンキツの周年供給技術体系の実証

予算区分：地域戦略プロ

研究期間：2016年

研究担当者：口本文孝・白石祥子・野口真弓

協力・分担関係：なし

発表論文等：第92回九州病害虫研究会研究発表会（2016年秋季大会）で口頭発表